

(研究部門)

**「子どもたちに確かな読みの力を育てる」
～説明文の三つの読みを意識した授業づくりを通して～**

大阪 市立 荻田北小学校 研修部

1. 研究主題設定の理由

本校ではすべての教科における読みの質を向上させるため、昨年度から国語科を研究教科に定め「興味・関心を高める国語科の指導方法～説明文の指導を通して～」として研究に取り組んだ。その結果、令和4年度の大阪市経年調査の結果は前年度に比べて下記の表の通り改善された。本校の大きな課題であった無回答率について、同一母集団で比較すると、どの学年においても前年度より減らすことができた。これは、まずやってみよう、最後まであきらめずに取り組もうとする意欲が増加したこと、また自分の意見を書くことに対して抵抗が減ってきたことが要因と考えられる。そして、点数の結果についても、前年度より同一母集団においてどの学年も上昇させることができた。一方で、興味関心は高まったものの、まだ読みの力は十分についているとはいえないのが昨年度末の課題であった。

そこで、今年度についても研究教科は国語科とし、「子どもたちに確かな読みの力を育てる～説明文の三つの読みを意識した授業づくりを通して～」という研究主題とした。

2. 研究の趣旨

前述の通り昨年度は説明文に限定して研究を行った。子どもたちに確かな読みの力を育てるためには、昨年度同様子どもたちが主体的に学習を進め、文をすらすらと読める必要がある。そのため、今年度も説明文に限定し、興味関心を引く学習過程の工夫と漢字の反復学習を継続して取り組むこととした。学習の意欲や基礎を充実させた上で、説明文に研究主題に設定している3つの読みの中から指導者が教材研究で選んだ読み取りの工夫を実践することで子ども達に読みの力をつけることをねらいとしている。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 興味関心を高める指導法の工夫

- 興味関心を引く言語活動の設定
- 題名読みや初発の感想の交流の仕方
- 言葉の力を意識した計画

視点② 説明文の三つの読みを意識した授業づくり

- 【内容を読む】…内容、事柄、情報を読む。

- 【構造を読む】…どのように書かれているか、どのような論理の展開、どのような意見、主張をしているかを読み取ること。
- 【筆者を読む】…筆者のものの見方、捉え方、考え方を読む。なぜ、そのような事柄を取り上げたか。

視点③ 反復学習の設定

- 週2回15分漢字を書く力を高める取り組みをする。
- 使用教材は蔭山式反復学習ドリルを使用し、「音読→空書き→なぞり書き→漢字練習→テスト」の流れを学校で統一して行う。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

①興味関心を高める指導法について

- ・題名読みをした上で初発の感想持たせ、それをもとに単元計画やめあてを立てた。
- ・第三次で言語活動を行うために、単元の導入で見本を見せ、並行読書をさせることで単元を通じて調べたいものを手に取れる環境を作ることができた。

②説明文の三つの読みを意識した授業づくり

- ・「内容を読む」「構造を読む」「筆者を読む」という今年度の新たな視点を意識して教材研究することで、これまであまり意識していなかった筆者の意図やしかけに注目し授業を行えた。
- ・挿絵や表をより詳しく読み取らせ、本文と照らし合わせることで確かな読み取りにつながった。
- ・筆者の考えを理解することができれば、より内容を読み取ることができる、構造を深くとらえることで、筆者の思いがよりわかるなど、単元に応じて三つの読みを関連させることで効果的に学習することができた。

③反復学習について

- ・漢字や単語、短文の学習を進めることで読む力を高めることができた。

(2) 今後の課題

- 分析した構造や内容を児童の自発的な読みに繋げるような発問をすることは難しかった。児童の実態に合わせて発問を吟味し、学校全体で系統立てていく必要がある。
- 発達段階に応じて児童につけたい力を明確にし、児童に筆者の工夫を学んだ、身につけたと実感させる方法をより指導者が知っておく必要がある。
- 「筆者を読む」という視点をこれまでよりも意識して取り入れたので、学習の経験を活かして、今後積み上げていけるように指導方法を確立していくことが重要である。